

あおぞら

第54号



医療理念

1. 医療の原点に立った心温まる医療
【Humanism】
2. 高度医療の提供
【High Level】
3. 職員一同連携し仕事を通じての
人間的成長 【High Growth】

目次

ごあいさつ	2
後期院内感染対策研修を終えて	3
腎センター拡張に寄せて	4
光晴会病院「サタデースクール」のご紹介	4
透析医療に関わった15年を振り返って	5
NEW FACE	6
外来週間診療予定表	8

特定医療法人

ごあいさつ

病院長
岡田 和也



今年元旦より晴天に恵まれ、令和時代最初の清々しい年明けとなりました。いよいよ東京オリンピック・パラリンピックが開催され、日本中が再び歓喜に包まれることになることと期待されていましたが、新型コロナウイルスの流行により東京オリンピック・パラリンピックの延期が決定されました。この原稿を書いている時点でも新型コロナウイルスの猛威は続いており、世界中の医療と経済に危機的な影響を及ぼしています。新型コロナの特徴や弱点が少しずつ分かり、ワクチンや治療薬開発のための前向き試験も複数進行していますが、臨床応用にはまだ時間を要するようです。治療薬開発までの間、いかにしてオーバーシュートを起こさず都市機能をロックダウンさせないようにするか、国境を越えた叡智を結集して新型コロナに立ち向かう時期にあると思われま

す。明治から昭和初期の物理学者であり地震学の権威としても知られている寺田寅彦氏はその随筆のなかで、「ものをこわがらな過ぎたり、こわがり過ぎたりするのはやさしいが、正當にこわがることはなかなかむづかしい」と述べ、正しく恐れることにより危険要因を徹底して減らすことの大切さを今に伝えています。感染対策においては、相手を知って正しく恐れることが重要であり、科学的なデータに基づいた冷静な対応が求

められています。当院におきましても、新型コロナに関する的確な情報や対応策を迅速に収集しながら、不測の事態に備えた当院の危機管理対策として取り組んでいるところです。

さて、昨年開院40周年を迎えた当院は、より公益性が高い病院である特定医療法人として、新たな一歩を踏み出しました。当院はこれまで、内科や外科、泌尿器科に加え、心臓血管センターならびに腎センター、糖尿病センターにおいて急性期医療や専門性の高い診断と治療に取り組んで参りました。また昨年、当院の長年に渡る地域の救急医療の確保と救急医療対策の推進に貢献したことが認められ、救急医療功労者厚生労働大臣表彰を受賞することができました。これもひとえに、これまで当院を支えて頂きました地域の皆様方のおかげであり厚く御礼申し上げます。

人口減少や医療の高度化が進む中、地域医療構想により医療の連携と機能分化が一層推し進められています。働き方改革の推進により、今後ますます効率的で効果的な医療が求められると思いますが、安全で質の高い医療によって地域医療に少しでも貢献できるよう病院一丸となって努力を重ねていく所存ですので、今後ともご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

後期院内感染対策研修を終えて



全職員を対象とした院内感染研修は毎年9月と2月に開催しており、後期は2月20日に研修会を行い、2月27日、3月1日の2日間のDVD研修を併せて全体の93%の参加率でした。

今年度は世界的に感染が拡大している新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、まずはじめに看護部の感染リンクナースより“感染対策～防護具の重要性について～”としてマスク着用の現状報告を行い、正しいマスクの装着方法を提示、職員一人1人が感染対策の必要性を認識し、心がけてほしいと呼びかけました。

続いてICD河野仁寿医師より“職員に向けた感染対策教育とICT活動報告”というテーマで現在急増している新型コロナウイルス感染症について、これまでの発生経過、現状を詳細に説明がありました。

拡大する国外・国内の感染状況に合わせ、対応についても少しずつ改訂されています。当院の初動対応についても職員に向けて発信され、現時点では当院外来では感染の可能性のある患者の受け入れはできませんが、今後パンデミックとなった場合は受け入れの要請もあり得ます。感染患者は氷山の一角であるためしっかり個々の感染対策が必要であり、感染対策の基本となる標準予防策、感染経路別予防策を徹底することが重要です。

医療従事者の感染対策の心得として①自分が感染しない②媒介者にならない③家に持ち帰らない④相手をよく知ることが大切です。職員一人1人がしっかり感染対策を行うことが求められています。

感染防止対策4病院連携についての紹介、ICT活動や院内ラウンドの現状についても詳細に説明していただきました。当院は2012年4月より感染対策加算2を取得し、加算1の重工記念長崎病院と加算2の長崎北病院、井上病院と連携を図り、感染対策の質の向上に取り組んでいます。手指消毒の推奨ポスターなどは毎年、色んなアイディアを出し合って作成しています。院内に掲示しているポスターを見て是非、自身を振り返ってほしいと思います。アルコール手指消毒は15秒擦りこむと効果的です。手指消毒で自分を守り、みんなを守りましょう。

当院のICTメンバーは医師、看護師、薬剤師、検査技師で構成されています。毎週水曜日に院内の環境ラウンド、耐性菌、抗菌薬ラウンドを行っています。“また来た～！こんなところみられたら・・・”という場面もありますが、改善策を一緒に考えていくことが大事です。

今回の研修を終えて、マスクや手指消毒剤が不足している中でも基本的な感染対策を行うことの必要性を改めて感じ、同時に職員の感染に対する意識の向上に繋がることを期待しています。



(ICT 大場寿満 記)

「顎マスク」や「鼻出しマスク」はやめましょう

腎センター拡張に寄せて

当院の透析室は、1979年6月に開設してから約40年が経過し現在に至っています。この長い年月により、患者増加による透析室拡大と透析機器や日々の看護業務も大きく変化しました。

2019年12月現在の現況は**ベッド数**:61床、**血液透析患者数**:190人(男114人、女76人)、**患者平均年齢**:68.7歳(64歳以下:53人、65~74歳:76人、75歳以上:61人)、**透析歴**:10年未満:128人、10~20年未満:31人、20~30年未満:18人、30~40年未満:7人、40年以上:6人(最長透析歴:47年)、**血液透析導入者**:26人(2019年1月~12月)、**医療スタッフ**は、**腎臓内科医師**:3名、**看護師**:28名、**看護補助者**:3名、**看護事務補助者**:1名、**臨床工学技士**:7名で対応。

「腎不全治療を通して透析患者さんのQOLの向上を目指す」という基本方針に基づき、明るく笑顔での対応と患者さん・ご家族に寄り添える看護を目標としています。

2018年末統計では、わが国の透析患者総数は年々増加し続け、339,841人に達しています。

患者さんの高齢化に伴い、合併症を抱える患者さんや要介護の方が増えています。当院でも65歳以上は全体の72.1%を占め、患者介護度は40.5%の人が何らかの介護を必要としています。

透析室では、食事やセルフケアなどの生活指導、シャント管理指導、糖尿病・透析に関わる足病変の観察とフットケア、高齢者では連絡ノートを活用した家族との情報共有、介護保険サービス、ケアマネージャーを通して介護支援施設との連携を行っています。また、穿刺は患者さんにとっては大きなストレスとなり、正確な穿刺が求められます。高齢者の血管脆弱、穿刺困難な患者には臨床工学技士、看護師が、エコー下穿刺やエコーによる血管評価を行なうことにより穿刺ミスを減らし血管の異常を早期発見し、医師に報告することで緊急PTA(経皮的シャント拡張術)の減少、早期の治療処置に繋げることができています。

これからも医師、看護スタッフ、臨床工学技士がチームとなり、スタッフ全員で患者さんの情報を共有し安心・安全な治療と看護の提供を心掛けていきます。

(血液透析室師長 松方 沙紀枝 記)



第1透析室 46床

光晴会病院 「サタデースクール」のご紹介

当院では昨年末より「サタデースクール」と命名し、職員同士の趣味の教室・講座を開講しました。

不定期ではありますが、土曜日の午後60~90分程度の時間で、職員が趣味の範囲内や資格を活用し講師となり、参加希望者を募り開催しています。部署を越え、仕事以外での交流により職員間の親睦を深めると同時に、個々の趣味の充実や新たな改革、生き甲斐に繋がればと期待しています。なお参加費用は材料費が実費で、講師謝礼につきましては病院の福利厚生としてレクリエーション費から出費してもらっています(*^_^*)

第1回 ~しめ縄作り~ 2019年11月30日

昨年の師走直前、サタデースクールはしめ縄作りでスタートしました。令和2年の幸運を祈願し職員それぞれの個性が感じとれる、素敵なしめ縄が完成しました!



透析医療に関わった15年を振り返って

日本の透析医療の本格的な始まりは1967年～69年にかけて日機装社(株)が広島、新潟の医学部附属病院にMR社(米国)の人工腎臓装置を納入したところから始まったと言われています。現在では当たり前になったMade in Japanの患者監視装置も当時は輸入品を国内で販売・納入していました。およそ50年の国内における透析医療の歴史があるわけですが私が関わりだした25年の中でも目覚ましく発展してきた医療の一つであると思います。

さて、当院の話に戻りますが私が入職した当時(15年程前)の透析室ベッド数は45床、患者数は150名前後。現在の60床190名に比べると一回り小さく感じるかも知れません。

透析室といえば朝のプライミング、穿刺、看護、回収が大きな業務として挙げられますが当時のコンソールは現在のようにフルオートでもセミオートでもなく規定量を流すと一台ずつポンプを止めに戻ってまた先のコンソールを流しに動いてまた戻ると...プライミングだけをみても現在からすると非常に面倒臭かった記憶があります。除水計算は手計算、記録用紙も手書き、回収はエア回収をされていて、今から考えると危険かつ非常に手がかかる治療だった様な気がします。今の時代、患者情報はコンピュータにて通信管理、機械操作と言えば脱血・返血を押す程度で一昔前からするとハード面は格段に進化しました。

しかし、それに反比例するように患者さんの環境は大きく高齢化へ。

高齢や糖尿病などでADLの低下した患者さんの導入は増え、看護の必要度や介護度は上がり以前に増して手がかかる治療に成りつつあります。

効率よく手間を省き、患者さんの傍らに寄り添える透析室を目指す為に、ハード面は機械に任せ、専門職の色を強めながら、医師、看護師、透析室に関わるコメディカルが連携し患者さんに安心、安全な透析治療を提供して行くことを目指しております。

(臨床工学技士主任 板森 知宏 記)



第2透析室 5床



第3透析室 10床

第2回 ～ふでぺんで書きましょう～ 2019年12月14日

のし袋の表書き、上手な人に代筆してもらわなくても良いように、まずは自分の名前書きから**美文字**にチャレンジしました!お手本にとらめっこしながら真剣に取り組みましたよ(一一)!!



第3回 ～お金のはなし～ 2020年3月7日

これまでとは志向がガラリと変わり、総務課長を講師にタイトルが「**お金のはなし**」のミニ研修でした。事前に募った質問には、家計の見直しポイントや賢い貯蓄の方法は?還元率の高いクレジットカードは?投資信託など資産運用について、他にも年金や老後資金等々、日頃抱えているお金に関わる疑問が多く寄せられました。講師からは長年の銀行マンの経験を活かした豊富な情報提供や、断舍利と家計簿のすすめなど日常生活の細かいアドバイスまで頂き大変勉強になりました!





①氏名 ②診療科 ③学会等の資格
④出身地 ⑤趣味・特技 ⑥自己PR

医師



- ①松竹 豊司(まつたけ とよし)
- ②内科(呼吸器内科)
- ③日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、ICD制度協議会Infeccion Control Doctor、日本呼吸器学会専門医、日本結核病学会結核抗酸菌症認定医・指導医、厚生労働省認定 がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修修了
- ④鹿児島県
- ⑤音楽鑑賞、読書、子どもとポケモンGO!
- ⑥皆様のお役に立てるよう努力いたします。



- ①永吉 洋介(ながよし ようすけ)
- ②内科(呼吸器内科)
- ③日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、ICD制度協議会Infeccion Control Doctor、厚生労働省認定臨床研修指導医、厚生労働省認定 がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修修了、日本感染症学専門医、日本呼吸器学会専門医
- ④長崎県
- ⑤旅行とグルメ・男の料理(パスタのみ)
- ⑥呼吸器科、特に感染症の領域を専門としています。基本的に忠実に、確かな医療を提供いたします。



- ①平井 達大(ひらい たつひろ)
- ②内科(腎臓内科)
- ③日本内科学会認定内科医
- ④長崎県
- ⑤旅行・弓道
- ⑥患者さんに寄り添っていけるような丁寧な診療を心がけます。これからよろしくお願ひします。



- ①川原 仁美(かわはら ひろみ)
- ②内科(糖尿病内科)
- ④福岡県
- ⑤スポーツ観戦(マラソン)・歌をすぐ覚える事
- ⑥家庭(育児)と仕事の両立を目指します。



- ①山崎 安人(やまさき やすと)
- ②泌尿器科
- ③日本泌尿器科学会専門医・指導医、日本泌尿器内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定医、厚生労働省認定臨床研修指導医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、厚生労働省認定 がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修修了
- ④長崎市
- ⑤スポーツ観戦
- ⑥患者さん、ご家族に寄り添う医療を心がけていきます。よろしくお願ひいたします。



- ①三好 敬之(みよし たかゆき)
- ②外科
- ③日本外科学会専門医、厚生労働省認定臨床研修指導医
- ④山口県
- ⑤旅行
- ⑥大学院明けて久しぶりの臨床なので、これまでの遅れを取り戻す分、精一杯頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。



- ①古賀 清和(こが きよかず)
- ②心臓血管外科
- ③日本循環器学会専門医、日本外科学会専門医、日本心臓血管外科学会専門医、下肢静脈瘤血管内焼灼術指導医
- ④佐賀県
- ⑤写真撮影
- ⑥心臓血管疾患に対する治療は、侵襲の大きな手術がありますが、患者さんが納得し安心して、一緒に治療していく環境を作っていきたいと思います。これまで培った経験を皆さんに還元できるように、頑張っています。



- ①大崎 隼(おおさき じゅん)
- ②心臓血管外科
- ③日本外科学会専門医、下肢静脈瘤血管内焼灼術実施医、厚生労働省認定 がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修修了
- ④東京都
- ⑤読書・水球(今はしてませんが……)
- ⑥誠心誠意、努力いたす所存です。



新入職者集合写真

今年度もあたらしい仲間が増えました。
みなさんよろしくお願いいたします！

外来週間診療予定表

令和2年4月1日現在

	月	火	水	木	金	土	
内科	たうら なおた 田浦 直太 (消化器)	みやぞえ ゆり 宮副 由梨 (消化器)	よしおか まさと 吉岡 正人 (一般)	みやぞえ ゆり 宮副 由梨 (消化器)	しばた ゆういち 柴田 雄一 (一般)	よしもと せいし 吉本 静志 (心療内科) (午前 不定期休み)	
	ふくだ やすひろ 福田 康弘 (消化器)						
	みやざき けんいち 宮崎 健一 (腎・一般)	ひらい たつひろ 平井 達大 (腎・一般)	ふくだ やすひろ 福田 康弘 (消化器)	おおつぼ としお 大坪 俊夫 (腎・膠原)	しばた りゅうじろう 柴田 龍二郎 (一般)		
	ながよし ようすけ 永吉 洋介 (呼吸器)	まつたけ とよし 松竹 豊司 もりかわ のぶお 森川 伸雄 (呼吸器)	ながよし ようすけ 永吉 洋介 (呼吸器)	まつたけ とよし 松竹 豊司 もりかわ のぶお 森川 伸雄 (呼吸器)	ながよし ようすけ 永吉 洋介 (呼吸器)		
	いずみ もともし 和泉 元衛 (甲状腺・肥満)	あかほし ひろし 赤星 浩 (消化器)	しばた ゆういち 柴田 雄一 (一般)	あかほし ひろし 赤星 浩 (消化器)	いずみ もともし 和泉 元衛 (甲状腺・肥満)		いずみ もともし 和泉 元衛 (甲状腺・肥満)
			しばた りゅうじろう 柴田 龍二郎 (一般)				
循環器内科	こうの まさき 河野 政紀	いしざき まさひこ 石崎 正彦		こうの まさき 河野 政紀	いしざき まさひこ 石崎 正彦		
心臓血管外科	ふるたち あり 古舘 晃	こが きよかず 古賀 清和		ふるたち あり 古舘 晃	こが きよかず 古賀 清和		
泌尿器科	やました しゅうじ 山下 修史	やまさき やすと 山崎 安人	やましたしゅうじ 山下修史	大学医	やまさき やすと 山崎 安人		
外科	おかた かずや 岡田 和也	おかた かずや 岡田 和也	大学医	すすむ せいや 進 誠也	すすむ せいや 進 誠也		
	きしかわ ひろき 岸川 博紀	みよし たかゆき 三好 敬之	きしかわ ひろき 岸川 博紀	きしかわ ひろき 岸川 博紀	たなか しろう 田中 史朗		
			たなか しろう 田中 史朗	やまくち いずみ 山口 泉	よしもと ひろし 吉本 浩 (形成外科)		
【午後】 14:00 ～ 16:00		おおつぼ としお 大坪 俊夫 (腎臓病疾患専門)	みやざき けんいち 宮崎 健一 (腎臓病疾患専門)	よしおか まさと 吉岡 正人 (一般)			
【午後】 13:00 ～ 15:00		第1・3・5週 こが きよかず 古賀 清和 (下肢静脈瘤専門)		しみず としまさ 清水 俊匡 (リウマチ専門)			
糖尿病センター 9:00 ～ 12:00	あかざわ しょういち 赤澤 昭一	あかざわ しょういち 赤澤 昭一	あかざわ しょういち 赤澤 昭一	あかざわ しょういち 赤澤 昭一	あかざわ しょういち 赤澤 昭一		
	かわはら ひろみ 川原 仁美	せら やすのり 世羅 康徳	せら やすのり 世羅 康徳	せら やすのり 世羅 康徳 フットケア	せら やすのり 世羅 康徳		

※ 診療科目：内科・外科・泌尿器科・循環器内科・心臓血管外科・消化器科・リウマチ科・リハビリテーション科・呼吸器科・腎臓内科・形成外科・肛門外科・糖尿病内科・麻酔科

※ 診療受付時間：午前8：30より 午前11：30まで ※ 予約制ですので、できるだけ予約をお願い致します。

光晴会病院 地域医療連携室 TEL 095-857-3563 (直通) FAX 0120-573-632 (直通)

(コミュニケーションマガジン) 編集委員

編集・発行責任者：岡田 和也

編集スタッフ：金子(顧問) 向井・岩谷(南3階) 杉内(北4階)
山下・門田(外来) 白木(血液透析室) 平野(中材)
坂本(臨床工学科) 下田(総務課)

特定医療法人 光晴会病院

〒852-8053 長崎市葉山1丁目3番12号

TEL095-857-3533 FAX095-857-2572

http://www.kouseikai.org/